

志をもって エズラ 3:1-7

2025. 11. 2、丘の上 NO. 760
春日部福音自由教会 山田豊

唱歌「故郷」の3番は、志を果たして故郷に帰ることを歌っています。いわば「故郷に錦を飾る」という事でしょうか。この歌詞とは逆に、エズラ記は、志をもって故郷に戻り、それを成し遂げるといふ物語です。

イスラエル王国は、ソロモン王の死後、北と南に分裂してしまいます。北王国イスラエルはアッシリアによって、BC722年に都は破壊され、10の部族は世界の各地に散らされてしまいました。南王国ユダは新バビロニアの脅威を受け、BC586年にバビロンに引いていかれ、都は滅ぼされました。しかしアッシリアを滅ぼしたペルシャ王キュロスは、ユダヤ人に対して、故郷に帰って神殿を再建して良いという布告を出し、彼らは都エルサレムに戻ってきたのでした。BC537年のことです。エズラ 1:1 - 4。

戻ってきたユダヤ人は、神殿再建を目指します。それこそが、彼らの持っていた志であり、なんとしても成し遂げなければならないミッションだったからです。神殿は破壊されていたので、彼らはモーセの律法の書に従って、まずいけにえを奉げるための祭壇を築きます。ユダとベニヤミン族に敵対する民、それはサマリア人たちと思われそうですが、の妨害を恐れつつも、神に礼拝を献げるという信仰の現れでした。

工事を始めたのは第7の月で、仮庵の祭り、新月の祭りと続く時でした。今日でいえば、9月から10月にあたる収穫の感謝を表すときです。神殿を再建する工事を始めるには、意味のある時でした。ちなみに、ハマスによって捕らえられていた残り20名の生存者が解放されたのは、今年の10月14日、ちょうど仮庵の祭りの最終日であり、イスラエルでは国中が喜びと感謝にあふれたそうです。工事を請け負ってくれた人たちには賃金や現物が支給され、その働きは周りの国々にも知られることとなりました。

しかし懸念されたように、この工事を妨害する人たち(4:10)がいたので。彼らは工事を手伝いたいと申し出たのですが、ユダの民はそれを退けました。彼らと一緒に工事をすると、後にユダヤ民族として純粋に神を礼拝することが妨げられると考えたからかもしれません。このようなことがありながら、ついに祭壇が築かれ、神殿が再建されたのでした(6:15)。神は神殿再建の志をあたえ、それをまっとうしてくださったのです。

神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。ピリピ 2:13

引用聖句

エズラ 1:1-4 1 ペルシアの王キュロスの第一年に、エレミヤによって告げられた【主】のことが成就するために、【主】はペルシアの王キュロスの霊を奮い立たせた。王は王国中に通達を出し、また文書にもした。2 「ペルシアの王キュロスは言う。『天の神、【主】は、地のすべての王国を私にお与えくださった。この方が、ユダにあるエルサレムに、ご自分のために宮を建てよう私を任命された。3 あなたがた、だれでも主の民に属する者には、その神がともにいてくださるように。その者はユダにあるエルサレムに上り、イスラエルの神、【主】の宮を建てるようにせよ。この方はエルサレムにおられる神である。4 あとに残る者たちはみな、その者を支援するようにせよ。その者がどこに寄留しているにしても、その場所から、その土地の人々が、エルサレムにある神の宮のために進んで献げるものに加え、銀、金、財貨、家畜をもってその者を支援せよ。』」

エズラ 4:10 その他、偉大にして高貴なアッシュルバニパルが、サマリアの町々とユーフラテス川西方のほかの地に引いて行って住ませた諸民族からであった。

エズラ 5:2 そこでシェアルティエルの子ゼルバベルと、エホツァダクの子ヨシュアは立ち上がり、エルサレムにある神の宮を建て始めた。神の預言者たちが一緒にいて、彼らを助けた。

エズラ 6:15 こうして、この宮はダレイオス王の治世の第六年、アダルの月の三日に完成した。

詩篇 51:17 神へのいけにえは砕かれた霊。打たれ砕かれた心。神よあなたはそれを蔑まれません。

ローマ 12:1 ですから、兄弟たち、私は神のあわれみによって、あなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、聖なる生きたささげ物として献げなさい。それこそ、あなたがたにふさわしい礼拝です。

ピリピ 2:13 神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。

仮庵の祭り(新生宣教団 HP より要約)

「仮庵の祭り」はヘブル語で「ハグ・ハスッコート」といい、略して「スコット」と呼ばれています。この「スコット」は仮庵、つまり仮に建てた家を意味するヘブライ語の「スカー」の複数形です。この祭りの期間には、草木で仮の小屋（テント）―仮庵が建てられます。なぜ、このような仮庵を建て、そして何を祝うのでしょうか。

秋の3つの祭りが行われる第七の月（ティシュリ：「最初」の意味を持つ）はユダヤの新年にあたります。その第1日目にはラッパが吹き鳴らされる「ラッパの祭り」、そして、10日目はユダヤ人にとって一年のう



ちで最も厳肅な、悔い改めと神の赦しを求める「贖罪の日」で、この日には断食をします。

その後、15日（14日の日没）から7日間にわたる「仮庵の祭り」が始まります。そして、8日目にもシムハット・トーラー（歓喜祭）と呼ばれる祭りが行われます。

「仮庵の祭り」は、今から約3千年前、何百年もの間エジプトの奴隷であったユダヤ人の祖先がエジプトから脱出し、解放された後、約束の地（カナンの地）に辿り着くまでの40年間を、荒野で仮庵を建てて生活したことを覚えるための祭りです。なぜこの祭りの期間に仮庵を建ててるのか、その理由がここにあります。荒野は水もパンもないところですが、人々は神から「マナ」というパンを与えられて、生かされました。ですから、「仮庵の祭り」はそのような神の恵みを思い起こす喜びと祝いの祭りと言えるのです。

現在でもイスラエルでは仮庵の祭りが祝われています。初日と最終日は休日で、この祭りの期間に長い休みをとる人も多いようです。ELCでは、仮庵の祭りといエス・キリストによる救いを合わせたサクスギビングティーパーティーを行い、クーゲルという伝統的なお菓子を作って食べる予定です。

シドッティ宣教師の生涯(屋久島シドッティ記念館 HP より、要約)

イタリア人宣教師、ジョバンニ・バッティスタ・シドッティ

(Giovanni Battista Sidotti) は1668年、イタリア南部地中海に浮かぶシチリア島の中核都市パレルモで誕生。

ローマ、ヴァチカンで神学だけでなく当時のヨーロッパ最高水準の学問を習得し、さらに日本の言語と文化を学んだ。1703年ローマ教皇直属の宣教師として7月上旬にイタリアから出航、喜望峰を周り、インド、フィリピンを経て屋久島に上陸。1708年10月11日深夜のことだった。

やがて、長崎奉行所に連行され、その後江戸に送られ、新井白石の尋問を受けた。白石は本国送還を願っていたが、江戸切支丹屋敷に留め置かれることとなった。ある日、身の回りの世話をしていた老夫婦が洗礼を受けていたことが発覚、3人とも地下牢に入れられ、夫婦の死後まも

なく 1714 年シドッティは静かに息を引き取った。シドッティの死を知った白石は『西洋紀聞』『采覧異言』を書き上げて、シドッティが生きた証を世に残すとともに、その後の幕府の対外政策に大きな影響を与えた。

シドッティが埋葬されてから、ちょうど 300 年目にあたる 2014 年の夏、切支丹屋敷裏門跡の一画から 3 体の遺骨が発掘された。DNA 鑑定など詳細な科学的調査の結果、シドッティと長助、はる、のものであることが証明され、国立科学博物館では発掘された遺骨をもとにシドッティの頭部の復元像を制作し、2016 年 11 月 8 日に公開された。



シドッティの生涯→[シドッティの生涯 | 屋久島シドッティ記念館設立実行委員会 | 屋久島町](#)